

第21回国際花火シンポジウム 開催地が大仙市に決定！

国際花火シンポジウム協会(International Symposium on Fireworks Society)は、同協会が運営する第21回国際花火シンポジウムを、2028年春に大仙市で開催することに決定いたしました。現在、スペイン王国バレンシアで開催されている第20回国際花火シンポジウム会場において正式なアナウンスがあり、その後「大曲の花火」実行委員会の委員長である大曲商工会議所の齋藤靖会頭から次回開催地としての歓迎メッセージが会場の参加者に伝えられました。

■国際花火シンポジウムとは

世界各国の煙火関係者（研究者、製造業者、花火イベントのプロモーターなど）が一堂に会し、研究成果の発表や商談取引が行われる国際会議です。1992年にカナダのモントリオールで第1回が開催され、その後1年半、または2年に一度開催されています。通常5日間程度の日程となっており、テクニカルプログラム（論文発表、グループ討論）、トレードショー（展示会）、イベント（オプションツアー、花火打上）で構成されています。

大仙市での開催は2017年に続いて、11年振り2回目となります。前回は日本を含む38の国と地域から449人が参加しました。

■齋藤靖「大曲の花火」実行委員会委員長が現地で伝えた歓迎メッセージ要旨

国際花火シンポジウムの開催地に再び選んでいただいたことを大変光栄に思います。関係の皆さんに心より感謝申し上げます。第21回国際花火シンポジウムが開催される2028年は、当地で開催される日本最高峰の花火競技大会「大曲の花火」の第100回大会が行われる大きな節目の年です。そのような記念すべき年にまた皆さんをお迎えすることができ、非常にうれしく思います。日本の花火業界も進歩を続けています。前回の開催時からさらに進化したHANABIをお楽しみいただくことができるよう、また、皆さんの滞在がより快適なものとなるように準備を進めてまいります。たくさんの方の来訪をお待ちしております。

■本件についての市長コメント

大仙市での2回目の国際花火シンポジウム開催は、「日本の花火」を世界にPRする絶好の機会であり、日本最高峰の花火競技大会開催地の責務である、日本の花火業界全体の発展につながります。また、2028年は「大曲の花火」第100回大会の記念すべき年でもありますので、その盛り上がり大きく貢献してもらえものと考えております。

2017年に開催された第16回のシンポジウムでは、関係機関のみならず多くの市民ボランティアのご協力をいただきながら、受け入れ体制を構築し、そのおもてなしが非常に高い評価をいただきました。前回の経験を生かしながら、参加者の皆さまにとってさらに良い滞在となるよう準備を進めてまいりたいと思います。

■第21回国際花火シンポジウムについて

現在お伝えできることは開催時期が「2028年の春」ということのみです。今後、国際花火シンポジウム協会との協議を経て詳細が決定されますので、お伝えできるようになりましたら改めて報告させていただきます。